

## 1. 調査概要

- **調査目的**：本調査は、「多摩六都科学館第2次基本計画」（計画期間：2014年度～2023年度）における長期（2014年度～2022年度）の9カ年の事業評価を行うために実施された調査である。

（第3期（2020年度～2022年度）の3カ年の中期事業評価はコロナ禍と重なるため、比較が可能なデータを取得できないと考え、見送ることとした。）

多摩六都科学館の様々な関係者（ステークホルダー）に対して行い、中長期の観点から事業の検証を行い、事業の成果だけでなく、課題や市民のニーズなども分析するために実施されたものである。

また、調査結果は、2023年度に策定する「第3次基本計画」（2024年度から10年間の中長期計画）の計画策定のための基礎資料として活用を図ることとなっている。

- **調査対象**：本調査は、多摩六都科学館の関係者を下表の6つのカテゴリーに分け、実施した。

- **調査方法**：WEB調査。それぞれ個別に調査サイトを作成し実施。

これまでの圏域市民調査は、5市の施設に向いて実施していたが、コロナ禍のため対面での調査ではなくWEB調査に変更。また、今後も中長期の事業評価調査を実施できるよう、経済性および業務の効率性の観点から持続可能な方法を検討するために実験的にWEB調査で実施した。結果、告知に十分な時間をかければ目標数の回収も可能であることがわかった。今後も中長期事業評価はWEB調査で実施予定。

- **調査項目**：多摩六都科学館の関係者における事業評価結果を比較できるように下表の内容とした。本調査はWEB調査であることから事業評価の主たる項目を設置目的と「第2次基本計画」の使命に絞り込み、回答者の負担軽減を図った。また、これまで実施した圏域市民調査結果と比較し、経年での変化についても分析できるよう調査設計を行った。

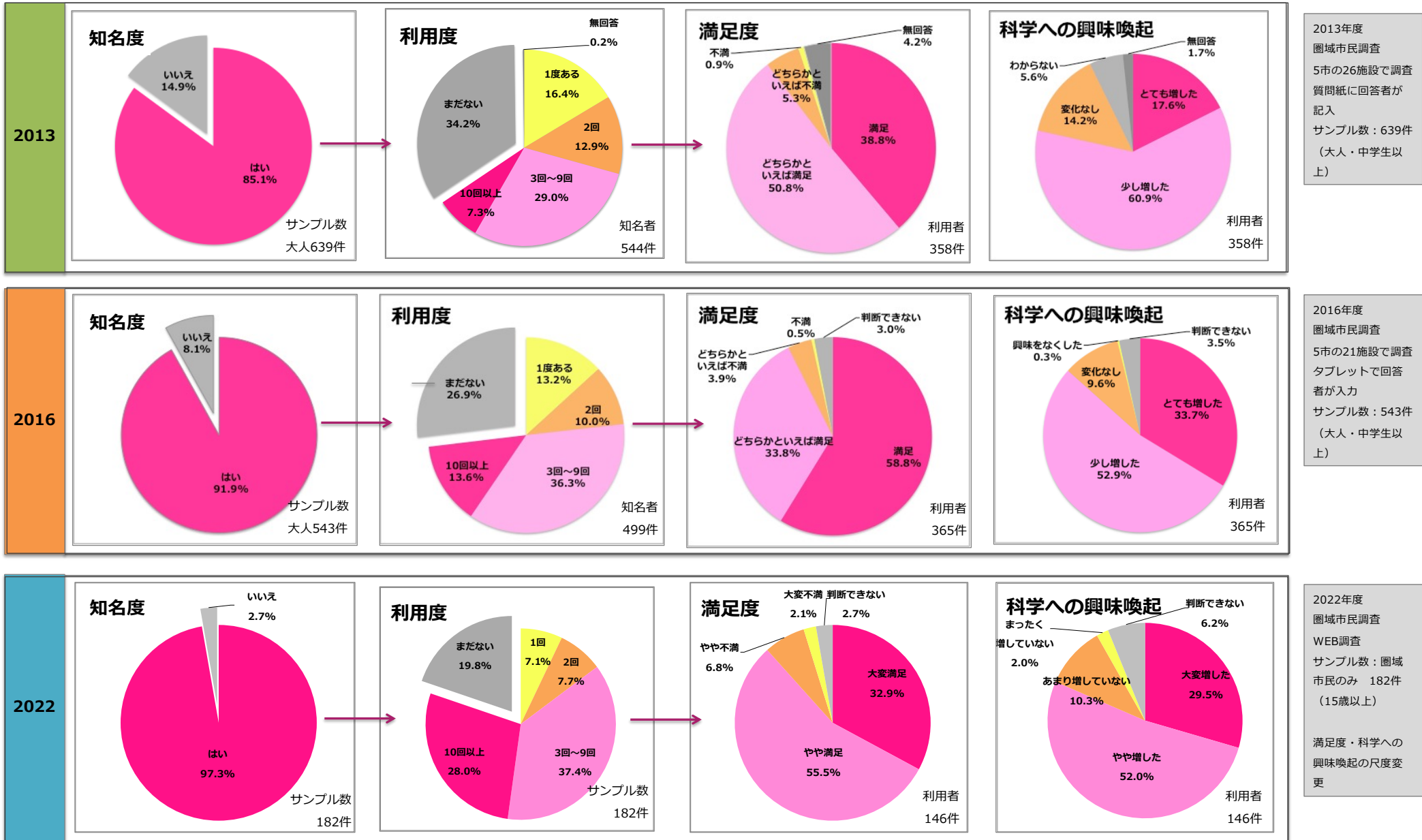
調査対象		調査項目								調査方法 WEB調査		サンプル数	
多摩六都科学館の関係者	概要	知名度	利用度	利用しない理由	満足度	課題・ニーズ	設置目的・使命の達成度・重要度	事業目標の達成度・重要度	今後期待している科学館像など	告知方法	調査期間	目標値	実査数
										① 市民	15歳以上、未利用者含む	●	●
② 利用者	15歳以上、個人での利用者	—	●	—	●	●	●	—	●	館内で告知 チラシ配布	2023年1月～ 2月	200	286
③ 団体利用者	圏域の学校や保育園など団体での利用者	—	●	—	●	●	●	—	●	組合から文書で依頼	2023年2月	—	87
④ 事業パートナー	多摩六都科学館組合・指定管理者の事業協力者や業務委託先など	—	●	—	●	●	●	—	●	組合・指定管理者からメールなどで依頼	2023年1月～ 2月	—	145
⑤ 事業実施者	多摩六都科学館組合・指定管理者	—	●	—	●	●	●	●	●	組織内で周知	2023年1月～ 2月	—	39
⑥ 設置者ならびに関連機関	科学館の設置・運営に関わる5市の関連機関や組合議員など	—	●	—	●	●	●	—	●	組合から文書で依頼	2023年2月	—	8
比較データ これまでの実施した 圏域市民調査	2013年度 第2次基本計画策定のための調査	●	●	●	●	●	●	—	●	市民（5市の施設26箇所）で実施・質問紙） 利用者（個人・団体）・協力者などにも実施		500	639
	2016年度 中期事業評価のための調査	●	●	●	●	●	●	●	●	市民（5市の施設21箇所）で実施・タブレット） 事業者・市民モニター・未利用者などにも実施		500	543

\*1：うち圏域5市の市民からの回答は182件

## 2. 多摩六都科学館の利用状況などの変化 (2013年度・2016年度・2022年度 圏域市民調査結果の比較)

- **知名度**：明らかに高まっている。
- **利用度**：「まだない」の割合が減ってきており、「10回以上」のリピーターが倍々に増えていることがわかる。
- 未利用者の約8割が「行ってみたい」と回答（3回の調査とも）。利用ニーズが高いことがわかる。

- **満足度**：2013年度と2016年度を比較すると「満足」の割合は約1.5倍に増加。2022年度では「やや満足度」の割合が多い結果となった。満足度の理由から、コロナ禍で休止している展示が多いことが起因。展示環境がコロナ禍前に戻れば、満足度も改善できると思われる。
- **科学への興味喚起**：2016年度に「とても増した」が2倍近く増加。2022年度に大きな変化は見られないが、満足度同様、展示や観覧環境が戻れば変化がみれる可能性が高い。



### 3. 関係者別 9カ年の事業評価 設置目的ならびに使命の達成度・重要度の比較 (2022年度調査結果)

#### 中長期事業評価指標

##### 設置目的

- 次代を担う子どもたちの夢を育み、科学する心を養うための科学館
- 各世代にわかる生涯学習の推進を図るための科学館
- 文化の振興に寄与するための科学館

##### 使命

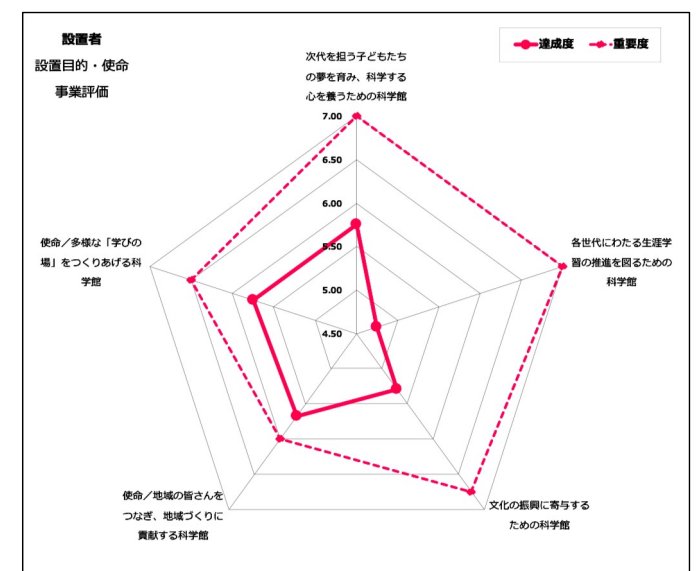
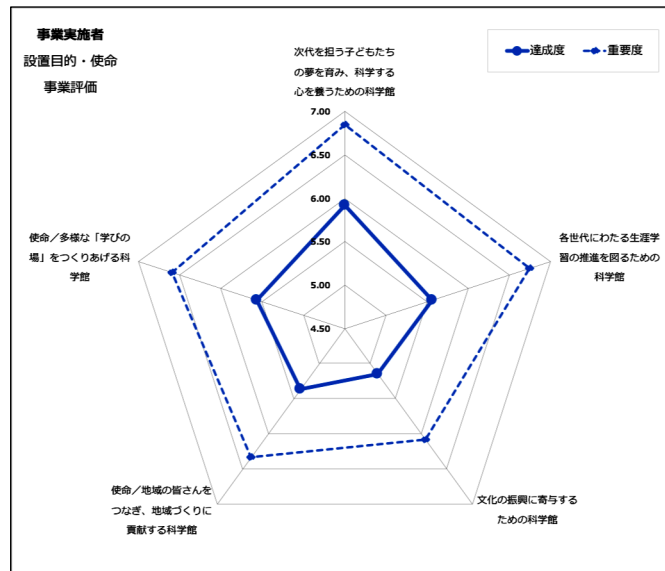
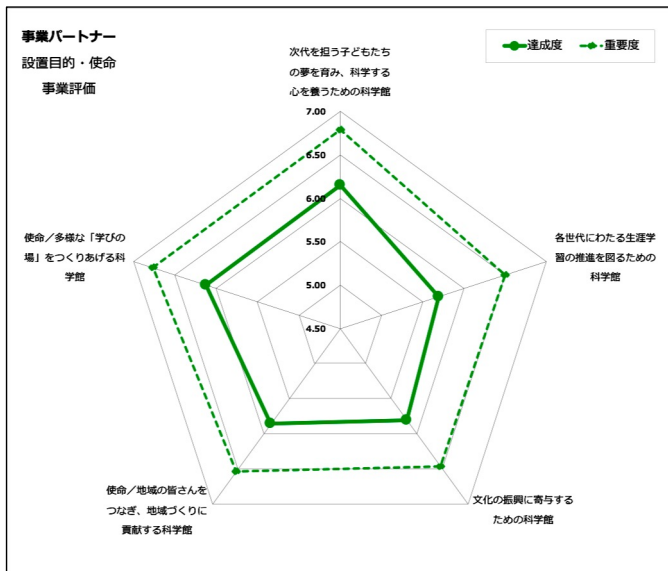
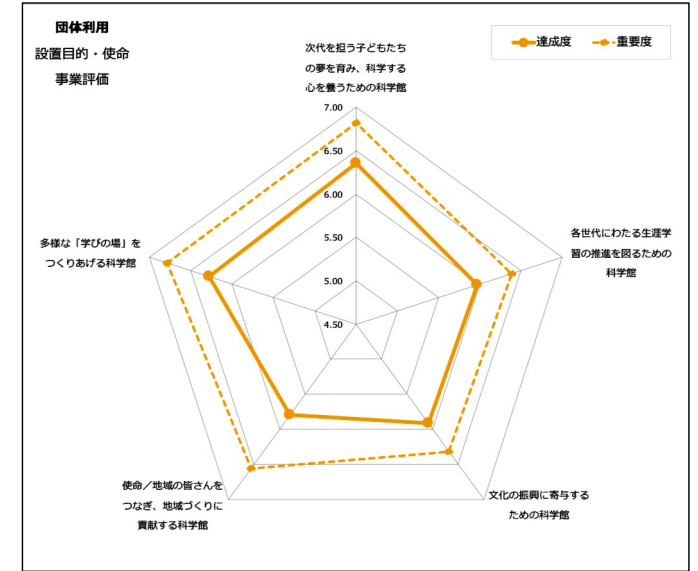
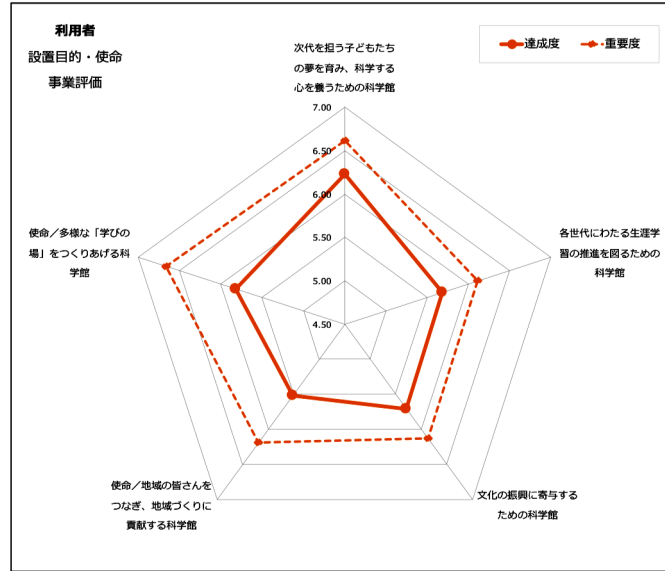
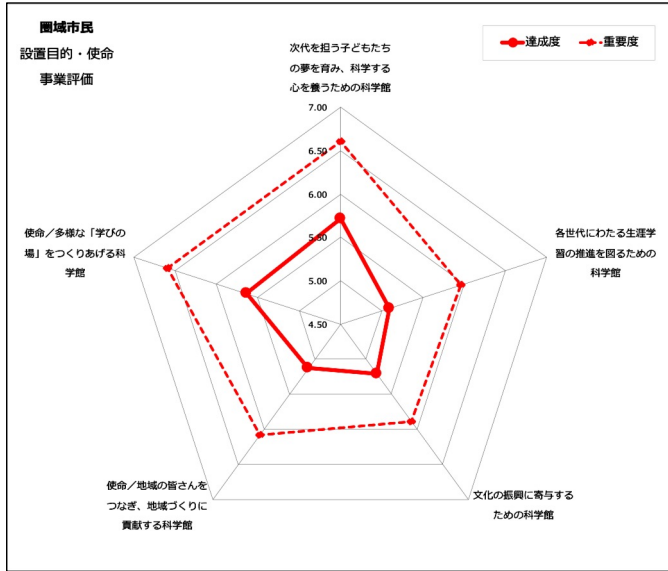
- 多様な「学びの場」をつくりあげる科学館
- 地域の皆さんとつなぎ、地域づくりに貢献する科学館

**達成度**：これまでの評価（9カ年の事業でどれくらい達成できたか、実現できたか）

**重要度**：今後の重要度（今後どれくらい重要か）

**加重平均値で比較**：4段評価の結果から加重平均値を算出してグラフ化、最高値は7点

- **達成度（実線）**：圏域市民（名前を知らない・未利用者含）よりも、科学館を利用している利用者（個人）と団体利用者の評価が高い。また、事業実施者よりも事業パートナーの評価が高くなっている。設置者による評価は、設置目的に対する達成度が、重要度が高い分、厳しい評価となっている。
- **重要度（破線）**：利用者の立場の場合、子どものための機能強化を重視する傾向にあるが、事業実施者は生涯学習機能面の強化を意識していることがわかる。科学館の役割を理解している事業パートナーはバランスよく、その役割も重視していることがわかる。設置者は設置目的を重視し、地域への貢献を強く期待していることがわかる。



# 4. 関係者別 設置目的ならびに使命の達成度・重要度の比較 (2013年度・2016年度・2022年度の調査結果の比較)

**達成度**：これまでの評価（9カ年の事業でどれくらい達成できたか、実現できたか）  
**重要度**：今後の重要度（今後どれくらい重要か）

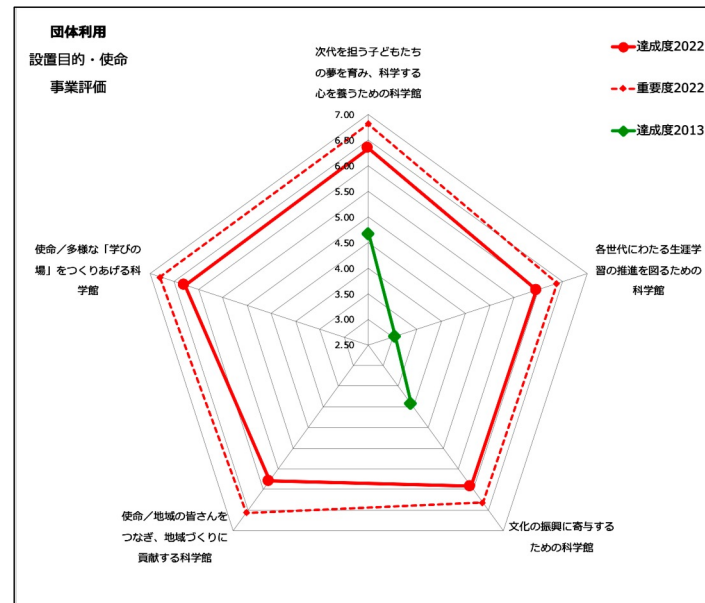
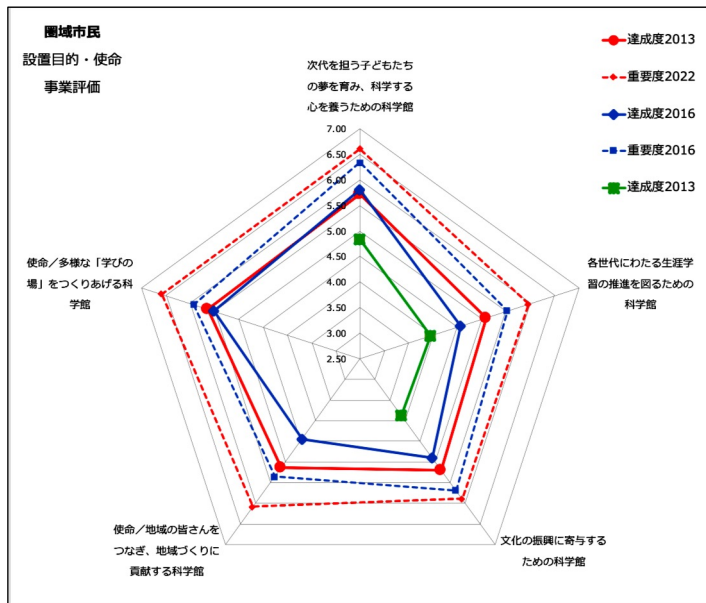
**加重平均値で比較**：4段階評価の結果から加重平均値を算出してグラフ化、最高値は7点

- **達成度（実線）**：徐々に多摩六都科学館のめざすべき方向性が理解され、全般的に「判断できない」割合が減ってきており、評価に協力してくれる傾向が見られる。設置目的・使命とも年々評価が高まってきていることがわかる。（事業パートナーの設置目的「次代を担う子どもたちの夢を育み、科学する心を養うための科学館」を除く）。
- **重要度（破線）**：どの関係者でも達成度よりもさらに上をめざす結果となっている。団体利用・事業実施者・事業パートナーは、「地域貢献」や「生涯学習」機能への期待も高く、5つの役割すべてバランスよく重視していることがわかる。圏域市民の場合は、「地域貢献」や「生涯学習」機能への期待は若干低めであるが、さらなる充実を期待していることがわかる。

2013年度 圏域市民調査  
 設置目的の達成度のみ調査  
 5市の26施設で調査  
 質問紙に回答者が記入  
 サンプル数：639件（大人・中学生以上）

2016年度圏域市民調査  
 5市の21施設で調査  
 タブレットで回答者が入力  
 サンプル数：543件（大人・中学生以上）

2022年度  
 圏域市民調査 WEB調査  
 サンプル数：233件（15歳以上）のうち圏域市民182件のデータで作成

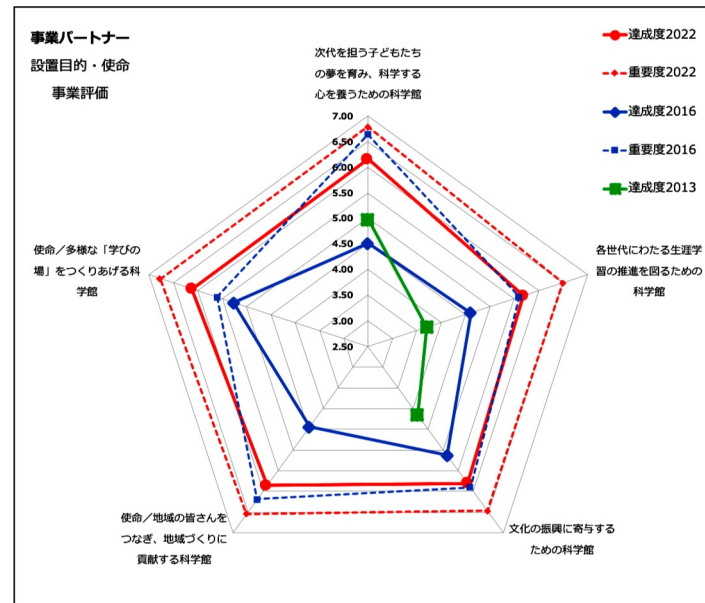
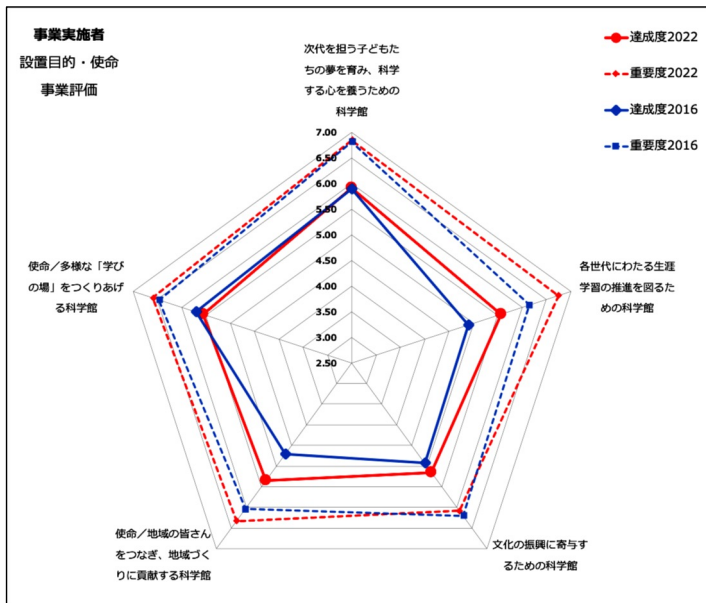


2013年度 学校団体調査  
 設置目的の達成度のみ調査  
 質問紙・郵送法  
 サンプル数：56件

2022年度 団体利用調査  
 WEB調査  
 サンプル数：87件

2016年度 事業者調査  
 WEB調査  
 サンプル数：36件

2022年度 事業実施者調査  
 WEB調査  
 サンプル数：39件



2013年度 連携対象調査  
 設置目的の達成度のみ調査  
 質問紙  
 対象：ボランティア  
 サンプル数：55件

2016年度 事業者など調査  
 WEB調査  
 対象：ボランティア、市民モニター、事業評価委員会  
 サンプル数：64件

2022年度 事業パートナー調査  
 WEB調査  
 対象：ボランティア、市民モニター、事業評価委員会、運営連絡協議会、協定先、事業協力者、業務委託先など  
 サンプル数：145件

**地域への貢献度**

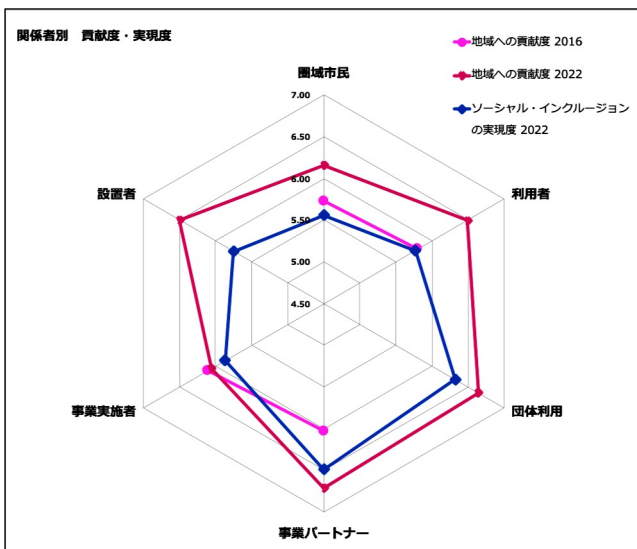
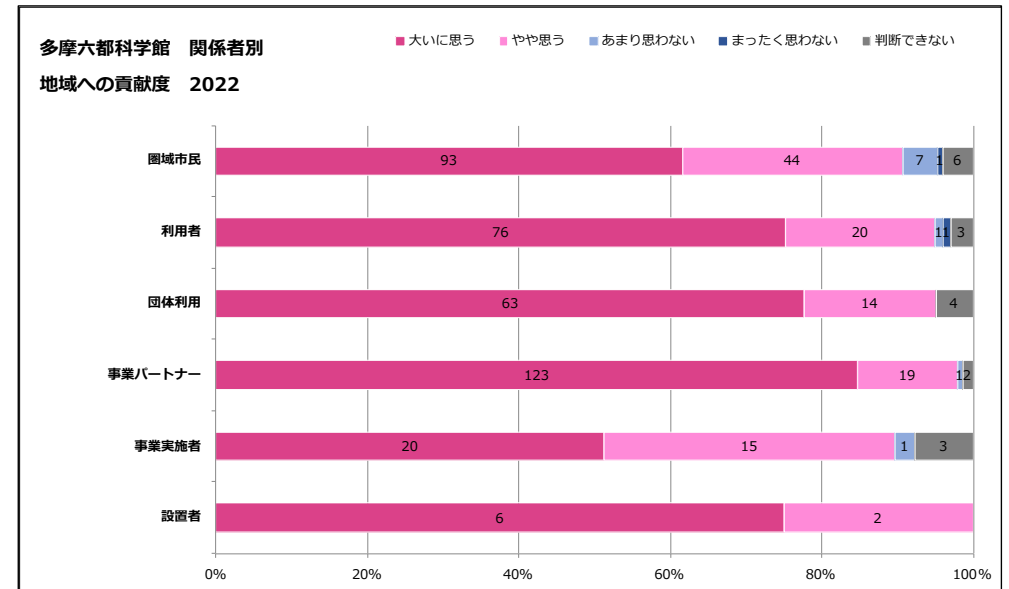
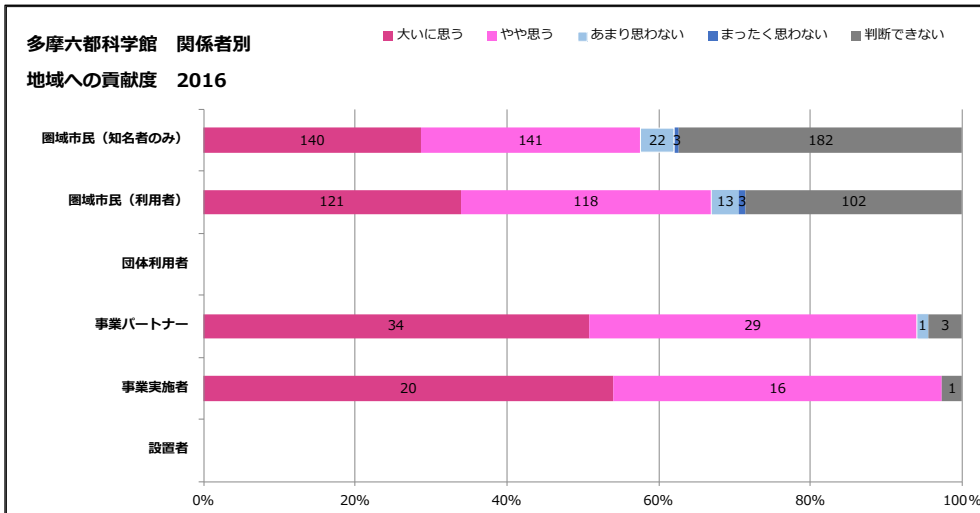
設問「多摩六都科学館の活動は、地域にとって価値あるものだったと思いますか。」

**ソーシャル・インクルージョンの実現度**

設問「多摩六都科学館は、年齢や性別、国籍、障害の有無などに関わらず「誰もが科学を楽しめる科学館」をめざし活動してきたと思いますか。」

選択肢：4段階評価+判断できない

- **地域への貢献度**：地域資源をテーマとした企画展や圏域市民感謝デーなどの開催から、多摩六都科学館が地域への貢献をめざしていることが圏域市民や利用者に浸透してきていることがわかる（「判断できない」の割合の減少）。2016年度と2022年度の加重平均値（左下グラフ）を比較すると、事業実施者は横並びであるが、圏域市民、利用者・事業パートナーともに評価は高まっていることがわかる。
- **ソーシャル・インクルージョンの実現度**：ソーシャル・インクルージョンは、2016年度の調査結果を反映させ、「ローリングプラン2016」で機能強化を図った活動方針。「誰もが」だけでは曖昧であるという指摘があり、ソーシャル・インクルージョンの観点からサービスの対象者を明確にし、活動を展開。今年度はじめて調査（結果は右下グラフ参照）をしたため経年変化分析はできないが、利用者の立場の関係者よりも、事業実施に近い関係者間では「判断できない」の回答が少ない、あるいは皆無となっており認識が高まっていることがわかる。事業パートナーや団体利用者からは高く評価されていることがわかる。



加重平均値で比較  
4段階評価の結果から加重平均値を算出してグラフ化、最高値は7点

